

自然景勝地 剣龍峽

剣龍峽は、新発田市南部の山間部に位置する1km四方位の景勝地です。
徳川時代の初期から広く世に知られ「越後野誌」にも載っております。

「剣龍峽」という名称は、昭和20年頃、深い山峽から流れる溪流の「龍伝説」にちなんで付けられたと云われ、奇岩、怪石を含んだ溪流、溪谷の総称です。

昭和31年、当時の庭園師の第1人者である京都の田中泰阿弥師が「清水園」の修復に来られた際、1日中剣龍峽に遊び、剣龍峽の岩はすべて砂岩で丸びをおび、女性的であり、日本で幾つもない景色の1つである。

また「禊（みそぎ）の滝」は上部に広く下部が細くなっているが、このような滝は、全国的にも数少なく、付近の雄大な山々とともに一幅の南画（中国の絵の一派）と賞讃しております。
なお昭和34年県立自然公園に指定されました。



○禊（みそぎ）の滝



○三神杉



○亀岩



○剣龍峽溪流



剣龍峽山の神社表参道

この参道は遊歩道で剣龍峽直接へはここより車道を500m上る



剣龍峽駐車場（トイレ有り）

剣龍峽の見どころ



○畳岩と龍の剣掘



○不動の滝

地図

